



食品ロス削減月間の取組について

「食品ロス」とは、本来食べられるにもかかわらず廃棄される食品です。

国内における食品ロスの現状（令和2年度）としては、年間約522万トン発生し、そのうち事業系が約275万トン、家庭系が約247万トンと推計されています。このような状況を受けて、食品ロス削減に関する理解と関心を深めるため、10月は「食品ロス削減月間」、10月30日は「食品ロス削減の日」と定められています。

当局における「食品ロス削減月間」の取組をご紹介します。

1. 食品ロス削減に関するパネル展の開催

令和4年10月24日～28日、当局1階行政情報プラザにおいて、食品ロス削減に対する意識啓発を目的に「食品ロス削減パネル展」を開催し、食品ロスの現状や食品ロス削減に関する情報発信のほか、県内で食品ロス削減に取り組んでいる事業者をご紹介します。

介しました。

沖縄県内における食品ロスの現状（令和元年度）としては、年間約6・1万トン発生し、そのうち事業系が約2・6万トン、家庭系が約3・5万トンと推計されており、全国的な傾向とは逆に家庭系の割合の方が高くなっています。このことから、沖縄では家庭から出る食べ残しなどの食品ロスに目を向け、削減に向けて取り組む必要があります。このような中、「消費者が普段の生活で身近に出来ることを紹介してほしい」とのご意見もいただき、「誰でもできる食品ロス削減」のパンフレットを配布しました。

来場者からは、「家庭で食品ロスになりやすい食材が分かれば、身近な取組の方向性が見える」、「消費期限と賞味期限の違いを多くの人に知ってもらおうという取組でほしい」とのご意見をいただきました。

一方で、「10月が食品ロス削減月間だとは知らなかった」との感想もいただいたことから、食品ロス削減月間の更なる周知を行い、多くの方に関心を持っていただく必要があると考えております。



▲パネル展の様子

2. 未利用食品の寄附について

食品ロス削減の1つの方法として、家庭などから未利用食品の寄附をいただき、フードバンクを通じて食品を必要としている方や施設等へ提供する取組があります。既に沖縄でも様々な企業や団体で行われていますが、当局では食品ロス削減月間に合わせて、米、レトルト食品、缶詰など、合計200点以上の未利用食品を、NPO法人フードバンクセカンドハーベスタ沖縄を通して、必要とされている方や施設等へ寄附しました。



▲セカンドハーベスタ沖縄に未利用食品をお届けしました

3. 食品関連事業者への啓発活動の呼びかけ

当局では、食品ロス削減の機運を高めるため、県内の小売事業者等に対し、ポスターの掲示や消費者に対して商品棚の手前にある商品を選ぶ「てまえどり」を促す取組への参加を呼びかけたところ、沖縄からは12事業者が取組に参加しました。

県内の取組のうち、株式会社丸大では、消費者向けのポスター掲示のほか、独自の取組として、見切り品の売り場で「あつ、MOTTAINAI（もったいない）」POPの掲示や地元小学校での食品ロス削減に関する出前講座が行われました。



▲POP「てまえどり」の啓発の様子

これらの取組により、賞味期限の近い商品を選ばれるお客様が増え、また従業員の食品ロス削減に対する意識が高まり、家庭での食品残さを減らすなど、できることから取組んでいるとのご意見があったとのことでした。

また、「てまえどり」については、食品ロス削減につながる行動として全国に広がりをもせたことから、2022年の新語・流行語大賞トップ10に選出されました。

今後、当局でも引き続き消費者、食品関連事業者の皆様と連携し、食品ロス削減に関心をもっていただけるよう取組んでまいります。



▲ポスター掲示による啓発活動の取組

県内の消費者啓発に 取り組む事業者

啓発資材を活用した消費者啓発に取り組む事業者(12事業者) ※五十音順

- イオン琉球株式会社
- 株式会社沖縄ファミリーマート
- 金秀商事株式会社
- 株式会社サンエー
- 株式会社JAおきなわAコープ
- JAおきなわ
- ファーマーズマーケット
- 生活協同組合コープおきなわ
- 株式会社セブンイレブン・沖縄
- 株式会社野高商会
- (フレッシュプラザユニオン)
- 株式会社丸大
- 株式会社リウボウストア
- 株式会社ローソン沖縄

お問合せ先

農林水産部 食料産業課

☎098-866-1673

令和4年11月22日(火)に沖縄アリーナで、全国土地改良事業団体連合会及び沖縄県土地改良事業団体連合会の主催により、第44回全国土地改良大会沖縄大会が開催されました。

本大会のキャッチフレーズは「水土里の拓くみるく世を鳴らしとうゆまし守禮の邦から」で、「水土里(土地改良)は、農地や水源を整備して地域や国を豊かにし平和な世の中をつくります。この水土里の素晴らしさを守禮の邦、沖縄から発信し、広く世界へ届けよう!!」という意味が込められています。

本大会には、勝俣農林水産副大臣をはじめ各方面の関係者が出席され、土地改良事業功労者表彰、基調講演、優良地区事例紹介などが行われました。また、パネル展や沖縄物産展コーナーが設けられ、沖縄県産の食材をふんだんに使用したお弁当も販売されました。沖縄県本土復帰50周年ということもあり、会場は大いに盛り上がりました。

本大会の開催により、沖縄県の農業農村整備事業の取組を全国に広く発信するとともに、熱帯性の気候



第44回 全国土地改良大会沖縄大会の開催

から栽培される多様な農作物、南国特有の豊かな自然や伝統文化なども幅広く紹介することができました。



▲勝俣農林水産副大臣による祝辞



▲会場の全景

お問合せ先

農林水産部 農村振興課

☎098-866-1652